

小特集:朝井閑右衛門が描いた街と人間 出品目録

会期＝令和7(2025)年7月19日(土)～11月3日(月・祝)

会場＝本館2階ギャラリー 観覧料＝無料

* 展示予定は変更となる場合があります。

no.	作者	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)
1	朝井閑右衛門	東京十二景の内	1935(昭和10)年頃	油彩・画布	26.5×33.5
2	朝井閑右衛門	東京十二景の内	1935(昭和10)年頃	油彩・板に画布	27.5×22.3
3	朝井閑右衛門	東京十二景の内	1935(昭和10)年頃	油彩・画布	22.4×27.5
4	朝井閑右衛門	電線風景(トンネル)	1952(昭和27)年頃	油彩・画布	45.8×53.1
5	朝井閑右衛門	街頭	1951(昭和26)年	油彩・画布	72.3×90.2
6	朝井閑右衛門	マーケット横	1951(昭和26)年	油彩・画布	60.7×80.5
7	朝井閑右衛門	栄誉人間と人形(A)	1966(昭和41)年	油彩・画布	72.8×91.0

【朝井閑右衛門 略年譜】

- 1901年(0歳) 大阪府に生まれる。本名:浅井實(みのる)
- 1919年(18歳) 後に陶芸家となる河野公平と上京し、叔父の家に寄寓する。一時本郷洋画研究所に学び、斎藤与里にも指示。
- 1926年(25歳) 第13回二科展で《廃園に於て》が入選。この頃から、雅号として朝井閑右衛門を用いる。
- 1928年(27歳) 小田原市の本源寺不動尊の裏手に住む。この頃、作家の牧野信一など、小田原付近の若い芸術家や文化人と交流。
- 1932年(31歳) 光風会会員・平岡権八郎と知り合い、現在の銀座7丁目にあった平岡のアトリエに居候する。
- 1934年(33歳) 光風会展、帝国美術院展覧会に入選。
- 1936年(35歳) 現在の練馬区にあった、通称練馬のアトリエ長屋の一軒を借りて500号の大作《丘の上》を制作。本作は文部省美術展覧会監査展にて文部大臣賞を受賞。
- 1938年(37歳) 上海軍報道部依頼の上海戦記録画制作のため、上海へ渡る。これを機にたびたび中国を訪れる。
- 1945年(44歳) 上海で終戦を迎え、翌年帰国する。
- 1947年(46歳) 横須賀市田浦に二軒長屋を求め、1軒分をアトリエに、もう1軒分を住居とし、以後20年ここに一人で住む。この年、光風会の仲間と新樹会を結成する。
- 1950年(49歳) 田浦のアトリエから眺めた鉄道の立体交差をモチーフとする《電線風景(A)》などを第4回新樹会展に出品。
- 1951年(50歳) 第5回新樹会展に《街頭》《マーケット横》などを出品。
- 1966年(65歳) 第20回新樹会展に《栄誉人間と人形(A)》などを出品。この年、鎌倉・由比ガ浜にアトリエを建て転居。
- 1983年(82歳) 鎌倉市の病院で逝去。